

## 会 議 録

会 議 名 (審議会名称)		川西市社会福祉審議会高齢者専門部会		
事 務 局 (担 当 課)		健康福祉部 いきいき長寿室 (内線2671)		
開催日時		平成18年3月20日(火) 13時30分～15時30分		
開催場所		川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委 員	小田 兼三 関 雄郎 藤末 洋 山下 治	牧田 満知子 荻本 文人 堀池 周司 森 まり	井上 克己 岸本 敏子 吉川 涉
	その他			
	事務局	健康福祉部長 認定サービス担当主幹 長寿社会担当主査 福祉推進室長 健康づくり室長	竹本 勇 乾 和雄 池田 敏夫 益本 正隆 西中 毅	いきいき長寿室長 長寿社会担当主幹 長寿社会担当主事 福祉政策担当主幹 健康づくり室主幹
傍聴の可否		可	傍聴人数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1、開会 2、協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者保健福祉計画(案)について</li> <li>・ その他</li> </ul> 3、閉会		
会議結果		別紙のとおり		

# 審 議 経 過

NO.1

平成17年度 第3回川西市社会福祉審議会高齢者専門部会

部会長：＜挨拶＞

事務局：＜配布資料確認＞

＜配布資料「高齢者保健福祉計画（案）」説明＞

## 協議事項

高齢者保健福祉計画（案）について

部会長：高齢者保健福祉計画（案）について、事務局から変更になった点を中心に説明がございましたが、気付いた点や意見、質問、感想などよろしくお願ひいたします。

委 員：保健分野の変更点として、対象者が65歳以上は介護保険に移って、40歳～64歳までとなったのが大きな改正点であると思いますが、この40歳～64歳までの年齢層というのは介護予防の観点からも大変重要な年代であります。健診の受診率が最も低いのが現状です。高齢者の保健福祉計画の中においては、この年代が対象者からはずれることになって、予算的にも縮小されていくのではないかと懸念しておりますが、今後の見通しはどのように考えられていますか。

事務局：65歳以上の方につきまして、18年度以降は介護保険に移行しますけれども、実態としましては、これまでどおり保健センターにおいて事業を実施してまいります。国の補助金の財源が移行するというだけで、事業自体は従来どおり行ってまいります。また、予算的にも力を入れている分野ですので、本市におきましてはできるだけ充実して行っていきたいと思っております。

部会長：40歳～64歳までの方の健診受診率の低さに対する改善策についてはどうでしょうか。

事務局：受診率の向上に対しては、医師会の協力を得まして、市民の方が身近な医療機関で健診を受診できるように、医療機関に健診を委託する仕組みにしております。また、サラリーマンの方などは勤務先の事業所健診を受けていただいておりますので、当事業の対象者は自営業の方や無職の方が対象となりますが、受診率の向上には、現在でも土曜日、日曜日についても行ってありますが、医師会の協力も得て、これをさらに充実させて、受診率50%を目標にしていきたいと思っております。また、健診につきましては、40歳、55歳、65歳の方に個別案内の通知を行っております。今後は5年刻み程度で個別案内できるよう、財源の問題とあわせて検討していきます。

部会長：歯科の分野についてはいかがでしょうか。

委 員：歯科・口腔ケアに関しては、残存歯数が多い方は残存歯数が少ない方よりも、医療費が少ないとの統計も出ており、歯科の重要性が認識されてきております。そのような歯科の観点からみましても、当計画の内容につきましては問題ないと思っております。

委 員：資料10ページの「要支援・要介護1認定者対象調査」について、計画の策定に際しては非常に重要な調査であると思いますが、おそらく調査結果を分析し、施策に反映することを目的に調査をされたのだと思いますが、男女比や前期後期高齢者比等の分析結果がないので、アバウトな結果になっていると思います。より詳細な分析を行って、第3節の施策の明確な方向性につなげていった方が有効的ではないでしょうか。

事務局：当計画に表としては記載していませんが、男女比等の分析できる資料はありますので、できるだけ活用していきたいと思っております。

# 審 議 経 過

NO.2

- 部会長：修正できるのなら、この計画にクロス集計を加筆していただけますでしょうか。
- 事務局：検討しまして、できるなら修正します。
- 委 員：歯科検診について、歯周疾患検診の利用状況が平成15年度と平成16年度を比較すると受診者が減少していますが、これはどうでしょうか。
- 委 員：歯周検診については、市民の感覚としては二極化していると考えられます。歯の疾患に関して意識のある市民の方については、普段からかかりつけの歯科医院に定期的に検診に行くので、保健センターで行う検診には受診しませんし、また17年度からは、自分の行きたい医院で検診できる制度になっています。一方では、検診の必要はないと考えている市民は検診には受診しないので、保健センターの歯周検診の受診者としては減っているのではないかと思う。今後は、検診の必要がないと考えている市民に対して、いかに重要であるかを伝えていくことが大事だと思います。そういう意味では、保健センターで行う歯周検診は、他の健診に来た方が、ついでに歯周検診も受診し、歯周検診の重要性を理解していただける機会となるので必要だと思います。
- 部会長：配布資料P26の 歯周疾患検診の項目について、先ほどの委員の発言内容を「現状」「課題」等の部分に加筆する事はできますか。
- 事務局：配付資料P26につきましては、歯周疾患検診の「現状」「課題」「施策の方向」に関する記載となっております。P22の集団健康教育にも課題はあげさせていただいております。
- 委 員：生活支援ホームヘルプについて、利用者が増えるどころか減っています。対象要件について見直すと記載しておりますが、どのようなお考えでしょうか。
- 事務局：生活支援ホームヘルプ事業、生きがい対応デイサービス事業、生活支援ショートステイ事業の3事業の対象者につきましては、今までの措置事業から介護保険制度への移行に伴って、介護認定で非該当になる方がおられましたので、介護認定を受けるまでの介護状態ではない方でも、何らかの支援が必要な方の為の施策として行っておりましたが、現在は非該当になる方の数も減少していることから、どのようにしていくかという結論はない状況です。
- 委 員：ニーズはあるのではないかと思います。利用者数が少ないのは、制度が使いづらいのかどうかのかわかりませんが、引きこもり対策としても、工夫して廃止ではなく努力してほしいと思います。また、介護保険の介護予防事業との連携はどうでしょうか。
- 事務局：生きがい対応デイサービス事業につきましては、介護予防事業と重なる部分があるかと思えます。
- 委 員：なかなか表には出てこない声を吸い上げる努力をお願いします。
- 委 員：社会福祉協議会もそのような取り組みをしていきたいと思えます。
- 委 員：地域では「福祉デザインひろば」を立ち上げる際に、引きこもりをなくし、社会に出てもらうということで、ふれあいサロンをできるだけ小規模で、身近で出やすいものにしていこうとしています。同時に、悩みの相談室も開催したり、高齢者だけではなく元気なうちから子供も一緒に交流できたらいいと思います。
- 委 員：抽象的な意見になりますが、当計画において「現状」と「課題」を分けてデータがありますが、課題とは何を意味しているのか、なぜその課題がでてきたのかを記載してほしい。この内容だと現状の説明でしかないのではないかと。市民にとってはわかりにくい。
- 事務局：高齢者保健福祉計画だけではなく計画全体に対するご意見ですので、次回以降の計画策定の際に検討させていただきたいと思えます。
- 委 員：健康や予防については、産まれてから死ぬまでのことであると思うので、65歳以上は高齢者の計画など、年齢で担当をわけのではなく、学校教育も含めて全市で横断的に検討

## 審 議 経 過

NO.3

会を持つなどしたらいいのではないのでしょうか。

事務局：ご意見のとおり、福祉分野におきましては子育てから高齢者まで非常に幅広い分野を担当しております。そのようなことから、各計画をバラバラにするのではなく、委員のご意見のような意味もあって、福祉分野の計画をひとつにまとめてそれぞれが整合性を持てるように工夫して現計画を策定しております。

委 員：ガン検診についてはどうでしょうか。

事務局：ガン検診につきましては、平成18年度からは前立腺ガン検診を新たに加えて行います。また、川西市の広報紙やケーブルテレビ等におきましてPRに努めていきます。

委 員：緊急通報システムにつきまして、自分のことは自分ですという時代に、家族と生活していても生活に不安をかかえる方が出てこれ、一人に1個ずつ安心のために持つような時代になると思いますが、今から見据えてほしいときに利用できるように準備をしておいてほしいと思います。

事務局：現状ではひとり暮らしの方が対象となっております。今後は、在宅高齢者の増加も見込まれ、将来に向けての課題になると思います。

委 員：病気をしないという意味での健康という考え方だけではなく、健康な体のさらなる健康増進を目指す見方もあっていいのではないかと。

委 員：良い考え方であると思いますが、高齢者の方にあまり激しい運動を求めるのは難しいと思います。

委 員：骨の検診について、対象者は女性ですが、受診者が倍増しており、素晴らしいと思います。

事務局：今後は男性への対応が課題であると考えております。

委 員：今後は男性の引きこもりをどうなくしていくか。そういう意味でも老人クラブとしては、できるだけ介護保険を使わないですむようにしていきたいと考えています。

部会長：それでは、本日の各意見につきまして、加筆・修正してもらって、その後につきましては部会長と事務局に一任していただけますでしょうか。

委 員：異議なし

事務局：各委員様におかれましては、これまで三度の開催にわたって、お忙しいところお集まりいただき、貴重なご意見ありがとうございました。本日ご意見いただいた点につきまして、加筆・修正させていただきますのでよろしくお願いいたします。